

2 鹿児島県総合教育センター研究提携校 令和6年度鹿児島県立松陽高等学校研究公開 研究報告

I 研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指して
ー知識・技能を身に付け活用する力を高める取組みー

II 研究主題設定の理由

各分野が急速に変化する社会状況の中、ICT教育の推進、学習指導要領改訂に伴う教育課程や大学入試共通テスト内容の変更、観点別評価の導入、生徒指導提要改訂など学校教育もめまぐるしく変わり、どのような視点・立場に立ち、どう指導すべきかといった教員のあり方が問われる今日となっている。

その中で、本校では令和3～5年度にかけて「生徒に身に付けさせたい資質・能力を教科等横断的に育成する研究ー目標・指導・評価の一体化を実現する取組を通してー」という研究主題を設定し、「学びのグランドデザイン」、「シラバス」、「単元配列表」、「単元計画表」、「ルーブリック評価」等を作成すると共に、「パフォーマンス課題」の設定や「ルーブリックを用いた定点評価」に取り組むことで、評価方法や授業の改善につなげてきた。これは、本校が設定している「生徒自身が身に付けるべき力（生徒に身に付けさせたい力）」と関連付けた取り組みであり、教員と生徒が同じ規準で評価することで、学習の見通しがつき、生徒は自己改善を図りやすいという成果を上げることができた。しかし一方では、生徒の細かい変容を読み取りにくかったという課題も残ったことから、指導や評価方法の改善に向けた研究を今後も継続する必要性があると考えている。

本校は、「創造性豊かで実践力のある社会に有為な人材」を教育目標に掲げている。令和2年度から、その達成のために、校訓である「向学」「高雅」「貢献」と生徒に身に付けさせたい資質・能力を紐付けた「SP9（松陽プライド9つの力）」を作成し、授業だけでなく、行事を含めた学校教育全般に「SP9」を位置づけた。令和6年4月に実施した、生徒が自己評価のために行う「松陽プライド 9つの力 アンケート」によると、「基礎力・創造力・発信力」が「現時点で身に付いているか自信がない」という結果が出ている。このことを踏まえ、「基礎的な知識や技能を習得し、他者との協働を図りながら、自ら設定した課題の解決を目指すには、どのような指導・評価方法が望ましいか」という研究の方向性を考えた。また、各教科指導ではタブレットや電子黒板、プロジェクターの使用を効果的に取り入れ、生徒自身の主体的な学習環境の構築も目指している。生徒からは「図や映像を示されることで学習内容が印象に残りやすい。」「より多くの意見をリアルタイムでまとめて見ることができるため、その時間のうちに自己の考えを深めることができる。」「クイズ形式で単語を確認できることは楽しい。」といった肯定的な感想が挙げられた。教員からもICTを活用した学習について、個々の学びから生徒同士が意見の交換など対話を通して交流し、お互いに高め合う学びとして有効であるという評価がある。しかし、「情報を鵜呑みにするだけで、疑問をもったり理解しようと努力したりする姿が見られない。」「知識を定着させ、それをもとに思考させる手立てとして、ICT機器をどのように使えばいいかわからない。」という意見もあることから、効果的な学びになるための指導方法の構築が引き続き課題であると言える。

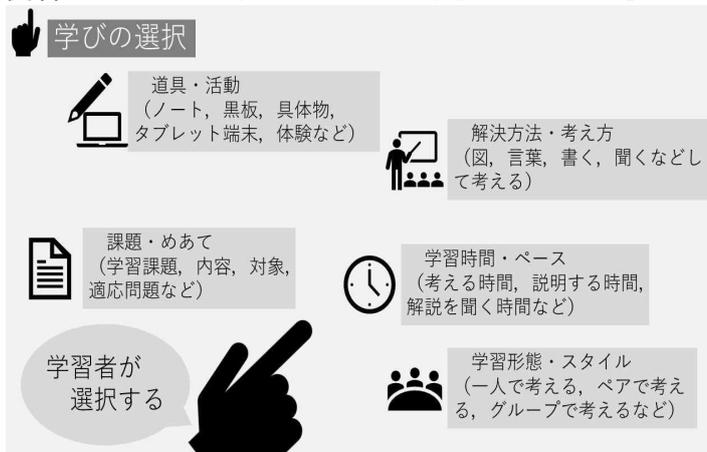
さらに生徒の実態として、推薦入試や総合型選抜を選択するケースが増加傾向にあり、生徒自身が目標に向かってより主体的に学ぶ姿勢を持ち、キャリア教育や探究活動に取り組む必要性を感じる。その他、学力診断テスト（スタディーサポート（ベネッセ））において、学習到達度に改善傾向がみられるものの学力到達度が伸び悩む生徒や、様々な点において支援の必要な生徒も多く在籍しているため、学習者視点に立った「指導の個別化」、「学習の個性化」への取り組みの重要性が強く感じられる。

令和3年1月に出された中央教育審議会答申『『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～』では、「個別最適な学び」が「孤立した学び」にならないように、「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを別個

のものとして捉えるのではなく、「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元するなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が必要だとされる。

そこで本研究では、生徒一人一人の実態を把握し個性や進路目標を尊重しながら、教員と生徒が共に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するため、様々な視点に立った指導方法や評価方法を実践していく。研究にあたっては、「学びの選択（鹿児島県総合教育センター調査研究における「学習者が選択する『学びの選択』の五つの視点」より）」（資料1）を指導方法として共有し、教科等横断的な学びの提供に努め、主体的に学びに向かい、自らの課題解決を図る生徒を育みたいと考え、本研究主題を設定した。

資料1 「学習者が選択する『学びの選択』の五つの視点」



III 研究の構想

1 研究期間

令和6年度～令和8年度（3年間）

2 3年間の研究計画

年度	主な内容
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの理解と研究 知識・技能を身に付け活用する力を高める指導方法の工夫 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの理解と研究 思考力、判断力、表現力を身に付ける指導方法の工夫 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す授業改善 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により生徒が身に付けた資質・能力の検証 研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表・研究成果の検証、まとめ

3 今年度の研究の方向性

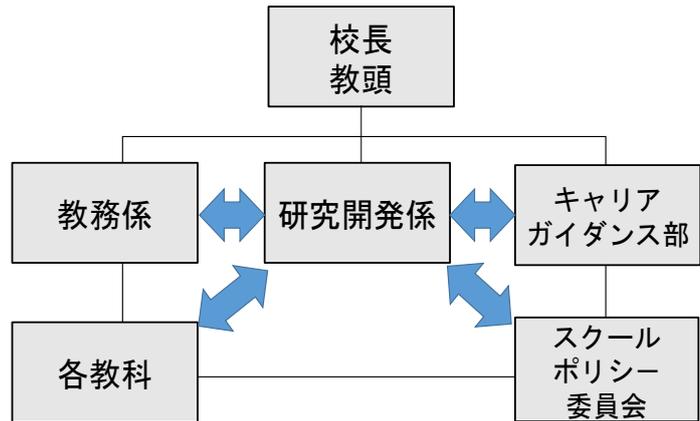
<p>①個別最適な学びと協働的な学びの理解と研究</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の研究(科目の目標、性質等の再確認・研究) 「個別最適な学び」「協働的な学び」に関する研究 研究開発通信（研究開発係作成）等による情報発信 	<p>②知識・技能を身に付け活用する力を高める指導方法の工夫</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 相互授業参観（同教科・他教科・他学年）の実施 SSTP (Shoyo Simple Teaching Plan) の活用 知識・技能を身に付けることを意識した授業形態・評価方法の研究 ルーブリック評価の作成 「学びの選択（鹿児島県総合教育センター調査研究における「学習者が選択する『学びの選択』の五つの視点」より）」を活用した指導方法の研究 	<p>③研究内容に基づいた授業の公開、実践事例や研究内容の発表</p> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己評価アンケート（生徒対象）の実施 職員アンケートの実施 アンケート分析 Classiによる、実践事例や研究内容の情報共有
---	--	--

4 研究の体制（資料2）

校務分掌上では、教務部の研究開発係が中心となる。係は、チーフと各教科1名（国語・地歴公民・数学・理科・外国語）の6名で構成されており、体制としては、研究開発係が教務係やキャリア・ガイダンス部（CG部）と連携をとりながら研究を進める。

また本研究は、本校独自のスクールポリシーであるSP9（IV1参照）を基盤に進めるものであるため、必要に応じてスクールポリシー委員会における検討も実施する。

資料2 研究の体制



IV 昨年度までの主な取組の継続

1 目標の共有（「SP9」の設定）

令和2年度に、「社会に開かれた教育課程」と学校教育目標達成のために新設したカリマネ策定委員会を中心に、本校生徒に身に付けさせたい資質・能力を設定し「SP9（松陽プライド～9つの力～）」と名付けた。令和3年度には生徒・職員間で目標の共有を図るため、新たに「松陽高校グランドデザイン」（資料3）やポスター（資料4）を作成し、以降、授業だけでなく行事を含めた学校教育活動全般でSP9の意識付けに努めている。

資料3 松陽高校グランドデザイン



資料4 ポスター



2 学びのグランドデザインの作成

令和3年度に「学びのグランドデザイン」(資料6)を作成し、学校教育活動全体におけるSP9の対応を示し、授業や各行事を通してどの力を身に付ける機会とするのか明確化した。「学びのグランドデザイン」は年度初めに教室掲示し、各種行事の前にもその都度プリント掲示(資料5)をすることで、年間を通してSP9を意識するよう取り組んでいる。

資料5 SP9教室掲示

松陽 PRIDE~9つの力~

教室掲示

文化祭を通して、身に付けてほしい力は…

自彩力
達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインする力

自奏力
自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長する力

創造力
課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力

連携力
対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力

発信力
自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝える力



松陽 PRIDE~9つの力~

教室掲示

体育祭を通して、身に付けてほしい力は…

連携力
対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力

自奏力
自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長する力

自彩力
達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインする力

発信力
自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝える力



資料6 学びのランドデザイン

令和6年度 鹿児島県立松陽高等学校 学びのランドデザイン

★ 学校教育目標

創造性豊かで実践力のある社会に有為な人材の育成



★ 松陽PRIDE～9つの力～

校訓	育てたい生徒像	資質・能力	定義
向学	自ら主体的に学ぶ生徒	①自働力	自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸張する力
		②基礎力	基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力
		③分析力	必要な情報を収集し、適切に判断・処理できる力
高雅	創造性豊かな生徒	④見聞力	多様な価値観を尊重し、世の中の情報や多様な意見を受け入れ、学ぶことができる力
		⑤創造力	課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力
		⑥自彩力	達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインする力
貢献	社会に貢献できる生徒	⑦連携力	対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力
		⑧発信力	自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝える力
		⑨寄与力	社会に関与する姿勢を持ち、学校や地域の取り組みに積極的に貢献することができる力

★ 各教科で育成を目指す資質・能力 (◎最も育成したい力 ○育成したい力)

各教科	①自働力	②基礎力	③分析力	④見聞力	⑤創造力	⑥自彩力	⑦連携力	⑧発信力	⑨寄与力
国語		○	○	◎	○			○	
地歴公民		◎	○		○		○	○	
数学	○	◎	○		○	○			
理科		○	◎		○		○	○	
英語	○	○		◎	○		○	○	
保健体育	○				○	○	◎		○
家庭		○		○	○	◎			○
書道	○	○		○	◎	○			
美術					◎	○	○	○	○
音楽		○		○	◎		○		
情報			○	○			○	○	◎
総探	○		○		○			○	◎

★ 主な特別活動で育成を目指す資質・能力 (◎最も育成したい力 ○育成したい力)

行事	①自働力	②基礎力	③分析力	④見聞力	⑤創造力	⑥自彩力	⑦連携力	⑧発信力	⑨寄与力
遠足				◎			○		
松伊殿						○	◎	○	
生徒総会							◎	○	○
文化祭	○				○	◎	○	○	
クラスマッチ						○	◎		○
体育祭	○					○	◎	○	
遠行	○					○			◎
修学旅行	○		○	◎	○		○		○
各種講演会	◎			○		○			
松陽芸術祭				◎		○			○
ボランティア活動				○			○		◎
全校朝礼				◎					○
薬物乱用防止教育	○		◎						
救急救命		◎	○						
ビブリオバトル			○	○	○		○	◎	

3 S S T Pの目的の共有

令和2年度に相互授業参観用として開発された松陽版簡易指導案＝S S T P (Shoyo Simple Teaching Plan) (資料7・8)だが、職員の入替わりによって、S S T Pの目的・使われている表現・内容について共通理解できていない部分があると感じられたため、それらについて再確認を行い(「パフォーマンス課題」とは何か、「単元を中心となる本質的な問い」とは何を意味するのか等(IV 4参照)), 相互授業参観や研究授業での活用を年度初めに促した。しかしながら、相互授業参観が十分に行われていない現状があるため、指導・評価方法のさらなる改善に向けて、相互授業参観の機会の確保やそれに代わる取り組みを含め、S S T Pの今後の活用について工夫が必要である。

資料7 S S T P (単元デザイン)

記入方法【研究授業用のS S T P】			
S S T P (Shoyo Simple Teaching Plan)			単元デザイン
教科・科目	学科・コース		
単元名			
単元目標	【単元目標】学習指導要領の「2内容」の記載を参考に記入する。		
課題	【課題】「パフォーマンス課題」を設定する。		
単元を中心となる問い	【単元を中心となる問い】「本質的な問い」を立てる。		
評価規準 (B段階)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【単元の評価規準】「学習指導要領」や「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」を参考に3観点で評価規準を作成する。その際、SP9と関連付ける。 評価規準はB段階(おおむね満足できる状況)とし、これより上がA、満たしていない場合はCとする。		
SP9	SP9	SP9	
評価場面・評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	【評価場面】定期考査、単元テスト、パフォーマンス課題、言語活動などを記入する。		
単元の指導計画	時	学習活動	指導と評価の観点 知 思 態 SP9
	1	【指導と評価の観点】3観点のうち重点項目に○を付ける。そのうち、単元を中心となる評価(総括的評価)に、◎を付ける。また、中心となるSP9を記入する。SP9は【評価規準】のところで対応させる。 ○・・・形成的評価(指導の改善に生かす評価) ◎・・・総括的評価(指導の改善に生かすとともに評定を付けるための評価、毎時間記録する必要はない。)	
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
7			

資料8 S S T P (授業デザイン)

S S T P (Shoyo Simple Teaching Plan)				授業デザイン
日時		指導者		
学級		場所		
単元名	【単元名】・【課題】			
課題	単元デザインに記載した内容と同じ。			
本時の実際	過程	主な学習活動	資質・能力の育成の工夫	SP9
	導入(分)	【資質・能力の育成の工夫】評価方法も含め記入する。(評価方法の例) ①行動の観察・記述の点検 ②行動の確認・記述の確認		
	展開(分)	発揮するSP9を記入する。(中心となるものだけでよい。)		
まとめ(分)				

4 パフォーマンス課題の研究

本校では、パフォーマンス課題を「複数の知識やスキルを総合的に使いこなすことを求めるような複雑な課題」と捉え、①実生活や実社会を想定すること、②複数の既習知識やSP9を組み合わせ解決に向かうような課題を設定すること、③「本質的な問い」を学習者自身が問わざるをえないようなシナリオを設定すること、を意識して考案、実施することとしている。なお、「本質的な問い」とは、「答えが1つではない問い・既習知識やスキルを総合的に活用し、解決に向かう問い・思考を誘発し、知的に興奮させる問い・さらなる問いを生み、探究心を育む問い・様々な場面や文脈で活用できる問い・様々な情報を活用し、解決に向かう問い」と捉えている。

パフォーマンス課題の形態としては、レポートや展示物の作成、スピーチやプレゼンテーションでの発表、実験の実施など、様々なものが考えられるが、パフォーマンス課題の評価においては、知識や技能の質を総合的に把握することに重点をおくことが重要である。

これらの点を意識しつつ、今後も各教科パフォーマンス課題・評価の研究に取り組んでいく。

5 ルーブリック評価と定点評価

ルーブリックとは、成功の度合いを示す数レベルの尺度と、各レベルに対応するパフォーマンスの特徴からなる評価規準表で、生徒の学習到達状況の絶対評価を行うためのものさしである。今年度、研究主題に従い、知識・技能に関する3段階（A：十分満足できる状況 B：おおむね満足できる状況 C：努力を要する状況）のルーブリック評価表（資料9）を作成した。

生徒と教師が評価を共有することで、生徒は見通しを持って活動に取り組むことができ、学習の成果の振り返りが次の学習の目標設定につなげることができる。また、教師側も自分の指導の振り返りを生徒一人一人の個別の対応につなげられ、特にC評価だった生徒への手立てを効果的に行うことができると考える。

今年度、各教科とも年間を通して活用できるルーブリック評価を用いた定点評価を行い、生徒たちの学習傾向や、変容を見取る取り組みを実施している。現在途中経過であるが、学年末まで継続して行い、結果の検証までつなげていきたい。

資料9 ルーブリック評価

まず【身に付けていく資質・能力】を決める。
今年度の研究内容（知識・技能を身に付け活用する力を高める指導方法の工夫）にある、「知識・技能」の中で、特に身に付けさせていきたい力を具体的に設定する。

身に付けていく資質・能力

○○する力

	評価方法	評価する内容
①	テスト、パフォーマンス課題、レポート、実験等	年間を通して学ぶ内容（「知識・技能」について）を記入
②		
③		
④		

ルーブリック評価

	A	B	C
ルーブリック	<p>【評価する内容】【ルーブリック評価】のところは、学習指導要領、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」を参考にしてください。</p> <p>「指導と評価の～」の「『知識・技能』の評価について」の中に、「学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものである。」という文言があります。</p> <p>この点を意識し、【評価する内容】の設定、【ルーブリック評価】の作成をお願いします。</p>		

V 本校の現状

1 生徒の実態

本校は特色ある学校として普通科の他に音楽科・美術科を有している（今年度の音楽科・美術科の生徒を割合は計21%）。音楽科・美術科の生徒たちの専門分野における諸活動はもちろん、加入率約80%に及ぶ部活動生の活躍もめざましいものがある。また遠方からの通学生も多く、今年度は列車通学65%、通学時間1h以上25%となっている。これらのことも一因として、自宅学習の不足傾向は深刻なものがある。

また、4月時点での進路未定者数が昨年度比較で増加しており、これらのことを総合的に見ると、「目標をもって、時間をかけて学習する」ことを意識している生徒が非常に少ないと考えられる。

2 自己評価アンケート（4月松陽プライド9つの力生徒アンケート）

S P 9がどの程度身に付いているかを分析するために、「自己評価アンケート」をGoogleフォームにて実施している（資料10）。項目の尺度は（1：自信がない 2：あまり自信がない 3：やや自信がある 4：自信がある）の4段階である。

資料10 4月松陽プライド9つの力生徒アンケート

4月「松陽プライド 9つの力」アンケート

松陽高校で身に付けたい9つの力。今の時点で9つの力がどのくらいあるか、自己評価してみよう。
(1・自信がない 2・あまり自信がない 3・やや自信がある 4・自信がある)

* 必須の質問です *

1. 学年・クラス・出席番号を4桁の数字（半角）で記入（例：1101, 2101）*

2. ①自奏力（自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長する力）*

1つだけマークしてください。

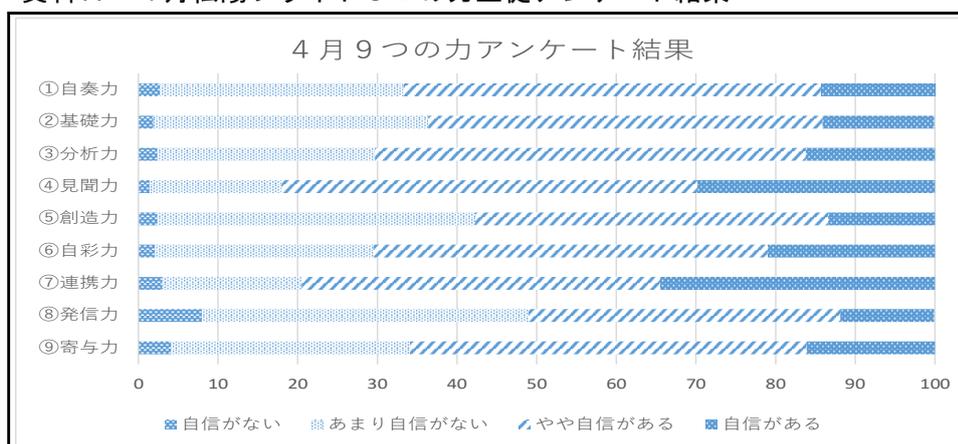
1・自信がない
 2・あまり自信がない
 3・やや自信がある
 4・自信がある

3. ②基礎力（基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力）*

1つだけマークしてください。

1・自信がない
 2・あまり自信がない
 3・やや自信がある
 4・自信がある

資料11 4月松陽プライド9つの力生徒アンケート結果



資料12 4月松陽プライド9つの力生徒アンケート結果分析

4月「松陽プライド 9つの力」アンケート結果 回答率70% (634人/905人)

【今の時点でどのくらいあるか】 (％)

	1・自信がない	2・あまり自信がない	3・やや自信がある	4・自信がある	1・2 自信なし	3・4 自信あり
	①自奏力	2.7	30.6	52.4	14.4	33.3
②基礎力	1.9	34.5	49.5	14	36.4	63.5
③分析力	2.4	27.3	54.1	16.2	29.7	70.3
④見聞力	1.4	16.6	52.2	29.8	18	82
⑤創造力	2.4	39.9	44.3	13.4	42.3	57.7
⑥自彩力	2.1	27.4	49.5	21	29.5	70.5
⑦連携力	3	17.5	45	34.5	20.5	79.5
⑧発信力	8	41	39.1	11.8	49	50.9
⑨寄与力	4.1	30	49.8	16.1	34.1	65.9

【現時点で最も必要だと考える力】

①自奏力 (自ら目標を決めて実行し、自分の個性を伸長する力)	14
②基礎力 (基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力)	18.6
③分析力 (必要な情報を収集し、適切に判断・処理できる力)	5.4
④見聞力 (多様な価値観を尊重し、世の中の情報や多様な意見を受け入れ、学ぶことができる力)	6.2
⑤創造力 (課題を発見し、企画したり探究したりすることで、新たな価値を生み出すことができる力)	6.8
⑥自彩力 (達成感の積み重ねから自信を持ち、自らの在り方や生き方をデザインする力)	8.5
⑦連携力 (対話を通して他者と協力し、一つのことを成し遂げることができる力)	26.8
⑧発信力 (自分の考えを言語化し、筋道を立てて分かりやすく他者に伝える力)	10.6
⑨寄与力 (社会に関与する姿勢を持ち、学校や地域の取り組みに積極的に貢献することができる力)	3.2

(％)

○スマホ・タブレットから情報が手に入りやすいことが影響し、見聞力に自信がある生徒が多いのではないかと。

○授業においてグループ活動（意見共有）の場が増えていることや、部活動において他者との協力が必要な場面が多いため、連携力に自信があると同時に、学校生活において重視している傾向があると思われる。

○学校生活の諸活動の中で、自己評価や他者評価の場面が増えており、達成感につながっているのでは。

○書くことにおいても話すことにおいても、思考したことを言語化し、他者に伝えることへの苦手意識が高いと思われる。

○学習・その他の活動において、課題や目標を設定し、計画的に実行したり、基礎力を向上させたりする必要性を感じている生徒が多い。

資料11・12は4月の結果とそれに関する分析である。

「Ⅱ 研究主題設定の理由」でもふれたように、生徒自身が「自信がない」と感じているのが②基礎力、⑤創造力、⑧発信力である。また、現時点で最も必要だと考える力として①自奏力、②基礎力、⑦連携力の割合が高い。

これらのことから、生徒自身が②基礎力の大切さを感じていると言える。なお、SP9における②基礎力とは「基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力」のことを指すが、基礎力＝身に付いている知識や技能、と認識している生徒も複数いると考えられた。そのため、今回の結果は、「基礎的な知識や技能を理解・習得するために継続して努力する力」と「身に付いている知識や技能」に自信がなく現時点で最も必要だと考えている、と捉えることとした。